

国内初となる役員報酬の連動を活用したハイブリッド社債 (サステナビリティ・リンク・ボンド)の発行について

芙蓉総合リース株式会社(代表取締役社長:織田 寛明、以下「芙蓉リース」)は、みずほ証券株式会社(取締役社長:浜本 吉郎、以下「みずほ証券」)を引受主幹事ならびにストラクチャリング・エージェントとする第2回ハイブリッド社債(劣後特約付)(サステナビリティ・リンク・ボンド)(以下、「本社債」)を発行しましたので、お知らせします。尚、本社債は、国内初となる「役員報酬の変動」を債券特性とするサステナビリティ・リンク・ボンドです。

芙蓉リースは、2022年度からスタートした中期経営計画「Fuyo Shared Value 2026」において、重点的に取り組む非財務課題ごとに定量目標を定め、財務(企業価値)・非財務(社会価値)両面の実現を等しく追求しています。かかる戦略の実現を資金調達面から支えるべく、昨年9月、非財務目標の全体を反映した「サステナブルファイナンス・フレームワーク」を策定しました。今般、財務健全性及び資本効率向上に加え、CSV(Creating Shared Value: 共有価値の創造)を実現すべく、当該フレームワークを一部改訂し、本社債を発行しました。

本社債では同フレームワークに設定したKPIsおよびSPTsのうち、「脱炭素社会実現への貢献」と「戦略的人材育成」に関連する2項目を選定するとともに、「役員報酬の連動」を本社債の債券特性としました。本社債は資本と負債の中間的性質を有しており、そこにガバナンスの観点を包含することで、芙蓉リースの課題取り組みへのコミットメントをより明確化しました。

芙蓉リースグループは、CSVの実践を通じた社会課題の解決と経済価値の同時実現により、企業グループとしての持続的な成長を目指しています。ESGファイナンスを通じて課題取り組みへのコミットメントを明確化し、この先進的な取り組みを通じてステークホルダーの皆さまに対して継続的にエンゲージメント(建設的な対話)を向上させていきます。

みずほ証券は、ストラクチャリング・エージェントとして芙蓉リースグループが中期経営計画において目指す姿の実現を金融面から全面的に支援しました。みずほ証券は、本社債をはじめ、国内SDGs債における数々の初案件をストラクチャリングした実績があります。また、M&Aや証券化の対応も強化するため、体制を大幅に拡充しました。今後もお客さ

まのサステナビリティ経営高度化・ビジネストランスフォーメーション(事業変革・事業構造再構築)戦略実行を後押しし、社会全体のサステナビリティ向上に貢献します。

※本社債の概要につきましては、2024年9月10日付けプレスリリース「第2回ハイブリッド社債(劣後特約付)(サステナビリティ・リンク・ボンド)の発行条件決定に関するお知らせ」をご参照下さい。

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/8424/tdnet/2500189/00.pdf>

【本件に関するお問い合わせ先】

芙蓉総合リース株式会社 コーポレートコミュニケーション室(担当:山崎・渡邊)03-5275-8891